

令和元年度事業 課題対応取組み一覧表(公表分)

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	活動テーマ
北区	大淀	様々「ツール」を活かした『福祉・包括ケア・まちづくり推進』～支え学び育て合い～共感～
	梅田東	高齢者の予防意識の向上と、問題の早期発見・早期介入を行う
	豊崎	地域包括ケアシステムの推進と地域との共同支援体制の確立
港区	港南	続・地域に出向こう！気軽に相談が出来る相談窓口の周知に向けて
	市岡東	孤立している高齢者へ社会とのつながりをつくる
	築港	圏域全体の相談件数を増加させてより多くの人の支援にあたる
浪速区	日本橋	相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のふれあいの場づくり ～連携と協働の為の体制づくり～
生野区	大池	ランチの周知と認知症の方々やご家族に対する支援を推進する
	生野東	・地域の実態把握と総合相談窓口の周知活動 ・地域における認知症当事者や、そのご家族に対する支援体制の構築
	田島	認知症になっても住み続けられる地域に向けて、早期発見、早期相談のできる関係づくり
	新生野	相談内容件数が多い認知症への取り組み 高齢者への認知症予防対策。 地域住民(若い夫婦世代・児童含む)に対する、認知症啓発
	新巽	様々な世代の地域住民の方々にランチの機能、役割を知っていただけるように周知活動に努め、顔の見える関係づくりを構築し、何かあれば気軽に相談してもらえるような身近な存在になる
阿倍野	昭和	早期発見・早期対応に向けた地域へのアプローチ
東住吉	矢田東	早期相談につながるための地域・専門職とのネットワーク作り
	矢田西	地域の行事や会に参画し、矢田西地域の住民へランチを知っていただく共に、相談しやすい関係作りを目指す
	白鷺	高齢者とその家族の在宅生活を地域と一緒に支援できるように、町会の事業等に参加しランチに気軽に相談できる関係づくりを行う
平野	喜連	新たな社会資源の創設と既存の集いの場の発展・活用について 【包括・ランチ合同事業】
	喜連東	新たな社会資源の創設と既存の集いの場の発展・活用について 【包括・ランチ合同事業】
西成区	天下茶屋	天下茶屋地域『男の座談会』の開催
	山王	続・地域に広がるゆるやかな見守りへ向けて～居場所作りの拠点・顔の見える関係で繋がる～「よりあい」の開催やボランティアの取組みを通じて～
	成南	高齢者の居場所作り
	梅南・橘	地域関係者と専門職の協働による取組と仕組づくり(つながりの場づくり)「梅南うたごえくらぶ」
	南津守	地域の高齢者が気兼ねなく集まれる居場所作り
	あいりん	人間関係の希薄な高齢者が繋がりをもてるよう支援 ～セルフネグレクト・支援拒否より～

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 大淀地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	様々な「ツール」を活かした『福祉・包括ケア・まちづくり推進』 ～支え学び育て合い～共感～
地域ケア会議から 見えてきた課題	「認知症」「精神疾患」「金銭管理」「環境、家族介護力」など複合的課題が増えている現状がある。ご本人や家族、周囲の地域住民が安心して暮らすためには、この現状を共有し、理解できるまち、早期に発見できるしくみ、情報が行き渡るまち、窓口がわかりやすいまちを目指す必要がある。まさに、移りゆく地域特性からも、地域住民、企業などを交えた多機関による、発想の転換必要な時期である。新たなターゲットと、これまでのツールを活かしながらも、協働、共感しながら一緒に「ゴール」を設定していくことが求められる。また、その過程で、住民、専門機関、企業など皆が、同じ方向を目指して、幅の広い、より深い関係を作って意見交換を行い、具体的な解決策を導き出す必要がある。その際、役割分担、主担当等、終結、見守りのみ等、しっかり誰もが理解できる「ゴール」と現在の支援の位置がどこなのかということとを共有していくことが必要。いづれも限りのあるもの、これらをどう乗り越えるかが大きな課題となる。
対象	各圏域住民と関係機関 （地域の活動団体（地域連合町会、地域社会福祉協議会、地域福祉活動協議会、民生委員や地域福祉コーディネーターを含む）、医療機関、関係福祉専門職と母体、職業体験中学生、郵便局、集合住宅居住者）
地域特性	中津は、北区の中でも高齢化率が高い地域。路地は狭く、消防車も入らない路地が入り組む長屋、商店街が密集する。火事を恐れる住民の声は高い。また、災害が発生すると帰宅難民が多く発生することも予測される。大阪駅前二期工事から、今後、中津、大淀ともに、大きく変化していく。先住民と、高層マンションに転入された新住民との双方のつながりが今後のネックとなる。若い世帯の転入、高齢者の転入も増え、今後、ますます増えることが予測され、どのように地域とつながるのかといった具体策も必要。また、大淀地域は、主な公共機関への交通の便が悪く地域に向けてのフォローが必要。各圏域共通して、大阪駅や中津駅など福島駅などが徒歩圏内で、認知症の方が遠方へ不明になる可能性も高くなっている。築30年越えの集合住宅では、重篤化したケースが多い。また、地域の活動では、多くの役割を担う人材の後継者づくりが課題となっている。
活動目標	小地域圏域での、地域住民、あらゆる関係機関等が協働し、包括ケアにおけるつながりを、より深化したものにいくため、様々なツールを意識して、日々の活動で共感を持って「ゴール」を目指す。認知症ツールを活かせるしくみの取組みを継続していたことから、他の課題（具体的には、見守り体制の強化、後には、意思決定支援に基づき、成年後見制度利用促進）へも活かせるしくみを協働しながら丁寧に築いていく土台をつくる。
活動内容 （具体的取組み）	【ツール1：認知症】では、（大淀東ぽっとひと息ひだまりカフェ）専門職スタッフとして可能な限り参画。（オレンジチームチーム員会議）個別ケースを検討、北区の傾向や連携上の課題等を共有し医療機関との連携が密になってきた。 【ツール2：喫茶、カフェ、高齢者食事サービス、脳活性化プログラムなど】では、窓口周知、地域住民のつばやき収集。意見交換の場を持った。 【ツール3：防災】では、大淀西地域防災訓練に継続参加して、状況を共有、課題を抽出。大淀東地域北住宅防災取り組みの状況を町会と共有。勉強会を開催（下記参照） 【ツール4：新マンション、旧集合住宅】では、中津マンションの取り壊しに関わる支援継続、大淀北住宅活用。 【ツール5：学習会・勉強会への参加、協力】では、作業療法士会と介護支援専門員協会との研修会で、認知症への学習に同席して受講。その後、親睦会に参加することで、これまで関わっていない関係者との意見交換の機会を持った。また、大淀西地域にて、も目的を持って、地域福祉策定委員会高齢者、障がい者グループに参画していた経緯より、委員一員専門職として、地域住民、コーディネーターと調整。十分に地域の力を発揮していただきながら、課題に残っていた、障がいについての、基礎の学習会「あいさぽーと研修」が開催できた。（12/9開催） 【ツール6：母体組織淳風おおさかへの橋渡し】では、施設に入居しても社会的つながりを継続。～中津ふれあいランチへ居宅CMと参加し、なじみの関係づくり。1/10淳風おおさかにて地域交流：ハーバリウムは新たな取り組みで好評。また、市営住宅集会所活用）10/27 大淀東の北住宅カフェOJT：こんなときどうする？ 急に退院を病院から告げられたら 孤独、孤立死についての2部を開催。2/23 大淀東の北住宅カフェOJT：北住宅で災害が発生したら？を開催。また、淳風おおさかとしては、福祉専門職としての役割を果たすべく、「淳風にすれば、なんとかなる」を目指す委員会が設置。検討模索中。 【ツール7：各種地域ケア会議、会議等】では、大淀西地域+民生委員長等と専門職とで小地域ケア会議開催し中津の取り壊し住宅課題を抱えた会議からは個別に落とし込みができた。

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	2014年からの流れある継続活動の成果として、ひとつのツールを活用することで可動してくると、別の課題にもそれを活かすことができるようになってきている。例えば、大淀西の地域活動福祉活動策定委員会では、地域の課題でもある『認知症』だけでなく『障がい』について、地域自らが主体となって、「障がい」について、学習の機会を得ることができた。地域力をさらに高めていく過程のひとつとなっている。関係者間で学習を深めながら、視野を広げていくことができた。また、母体組織に対しても、単発イベントから継続イベントへ移行し、さらに、地域の声、入居者の声、職員の声聞き取りタイムリーに対応できる力を蓄積してきている。地域においては3地域の課題、カラーを見極めながら活動できる体制への土台ができた。
今後の課題	支援に繋がっていない認知症の方や虐待を早期に発見すること。最後まで意思決定ができるようにサポート体制を構築すること。成年後見制度の啓発と受け皿状況の把握、整備も必要。早期からのCMとの役割を持った連携。しかし、相互の特性を熟知すること、多業務の中での折り合いの中でタイムマネジメントや、個のみでなく、システムへの働きかけが必須。効率性と時間をかけて関係を深めることとの相互のバランスを保つことはとても難しい。ここでも受け皿として、マンパワーの課題が発生する。どれもこれもが限りのあるものでどう乗り切るかは、今後、どれだけ、一丸となれるかがカギ。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	様々な地域活動に出向き、住民や地域、関係機関の声を聞き、課題の共有や連携支援への取組に努めていることは評価できる。今後も支援が必要な方に早期に介入ができるよう取組みを継続してほしい。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称

梅田東地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	高齢者の予防意識の向上と、問題の早期発見・早期介入を行う
地域ケア会議から 見えてきた課題	1. 地域とのつながりが希薄な高齢者が、加齢や疾患による閉じこもりがちな生活等で生活機能の低下が生じても周囲に把握されず、状況が悪化してから表面化し相談につながるが多い。また認知症症状の進行に伴い、近隣者が対応に戸惑い住み慣れた場所での生活の継続が難しくなるケースがある。 2. 圏域は高層マンション建設が進み、近隣との交流を好まず、地域とのつながりを持たない生活スタイルの住民も増えていくと予想される。支援対象者の早期把握には、近隣・マンション管理組合等の協力が得られやすい関係づくりに向けた取り組みが必要である。 3. 平成30年から取り組んでいる北天満地域は令和元年度より予防運動が開催される。
対象	圏域内地域住民
地域特性	・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。特に高層マンションに転入者が多く人口の増加傾向にある。そのため、セキュリティの問題から地域関係者が介入しにくい状況にある。 ・圏域により高齢者の予防意識に違いがある ・圏域内には主要病院が集中している
活動目標	1. 高齢者自身の健康、予防意識を高める 2. 高層マンションへの周知や啓発により情報共有ができる 3. 北天満の百歳体操参加者が増え、地域の予防意識向上に努める
活動内容 （具体的取組み）	1-1地域住民の実態把握と意識づけ、身体変化の早期発見と対応（継続活動） 実施地域：梅田東 済美 北天満 1) 脳活性化プログラムの実施 2) 参加希望者には体操前に血圧測定を行い、体調の聞き取りをし自己管理能力を高める 1-2地域住民の健康意識を高める 1) 済美地域での体力測定と講演会 令和元年5月29日（水）済美はつらつ脳活性化教室参加者への体力測定 実施協力者：グッドライフケア、保健師、CSW、北区包括 参加者27名 令和元年10月30日（水）「済生会中津病院の薬剤師が話す薬の話しパート2」 講師 済生会中津病院 薬剤師 萱野勇一郎 参加者38名 令和2年1月29日（水）「加齢による痛みと筋力低下～無理のない身体作り～」 講師 済生会中津病院 理学療法士 岡田和也 参加者39名 2) 北区包括・ランチ地域 令和元年11月2日（土）「福祉用具＆健康・介護食フェア」北区包括と共催 参加者162名 福祉用具の展示・試乗 宅配弁当・介護食の紹介 健康測定 1-3地域関係者との情報共有 1) 北天満地域、済美地域、堂島・中之島地域の民生委員会への参加 2. 高層マンション地域及び高層マンションへの周知や啓発 1) 堂島・中之島地域出張相談 ふれあい喫茶時間内にCSWと協働開催 令和元年6月22日（土）、9月28日（土）、10月26日（土） 11月30日（土）、1月25日（土） 2) 高層マンションでの講演会 グランフロント大阪出張相談会 令和元年6月18日（火） 相談員 梅田東ランチ 富鶴真由美 予約相談者2名、当日相談者1名 ザ・梅田タワー住民向けセミナー 終活について学ぼう 司法書士 林英樹 参加者5名 3) 高層マンション・マンションへの周知活動 北区マンションコミュニティー支援事業2019 グランフロント大阪防災講座にて包括・ランチ周知活動 令和2年1月27日（月）、同年2月1日（土） 実際に相談者が出たマンション、築10年以上経過しているマンションへ 出向き、管理人室へランチパンフレットを配布。11か所 3-1北天満地域の予防意識向上の働きかけ 1) 令和元年9月6日（金）北天満百歳体操活性化支援 OGMRラボによる筋力測定 参加者20名 2) 令和元年12月12日（木）常盤湯にて筋力測定会 OGMRラボによる筋力測定、生活支援CD、包括・ランチより百歳体操案内 と介護出張相談。参加者20名 3) 予防意識向上のための講演会 令和元年9月21日（土）「加齢による痛みと筋力低下」無理のない身体づくり 講師 済生会中津病院リハビリテーション技術部 岡田和也 参加者10名 3-2市営住宅内高齢者実態把握 平成30年7月～9月70歳以上高齢者家庭訪問 83名対象 令和元年度はデーター分析を行ったため令和2年度は再訪問する

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1.・地域高齢者への予防講演の開催や脳活性化プログラムの実施を継続することで地域住民との関係性もでき、血圧測定時などに介護相談を受け早期介入に繋がっている。 ・講演会は薬剤師と理学療法士から、内服管理やフレイル予防関連の話を参加者との対話も含めて講演してもらい好評であった。アンケートでは講演内容を生活に取り入れようと思う方が多く、予防意識の向上に役立ったと思われる。 2.・マンション管理会社へのランチ周知活動により、2つのタワーマンションで出張相談と住民向けセミナーを開催することができた。 3.集中取り組みを行っている北天満地域に関しては、生活支援CDやOGMラボと協力し筋力測定会を行い、中津病院理学療法士の講演会も行った。講演会は地域社協会長からも継続依頼があり、アンケートには栄養について聞きたいという声もあった。
今後の課題	1.高層マンション、マンションへの周知活動を継続し、特に実態把握が不十分な堂島・中之島のマンションで暮らす高齢者の実態把握について北区地域包括、地域関係者と協力してアプローチを検討する。 2.北天満地域は引き続き、住民の予防意識向上のため関係機関、地域関係者と協議して取組内容を決定していく。扇町市営住宅への再訪問を北区地域包括と協働実施する。 3.相談実人数の増加により一人ランチでは窓口に在籍することが難しくなっている。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	北天満地域の予防意識向上の取組は戦略的に実施し、アンケート結果からも参加者の意識向上につながっている。マンション居住者へ出張相談の実施や防災講座に出向き活動の周知など新たな手法で活動し、またマンションアプローチの日々の活動からマンション管理人との関係を構築していることも評価できる。今後も取組みを推進してほしい。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称	豊崎地域総合相談窓口（ランチ）
----	-----------------

活動テーマ	地域包括ケアシステムの推進と地域との共同支援体制の確立
地域ケア会議から 見えてきた課題	○地域のネットワークにつながっていない方を地域へつなぐ ○早期発見・早期支援につながる関係作り ○地域関係者や多職種との支援体制の強化
対象	本庄・豊崎地域住民
地域特性	○流動人口が増加しており、地域ネットワークが分散している ○地域関係者による福祉活動への熱心な取り組みがあるが、地域のネットワークにつながっていない住民が存在している。
活動目標	○地域住民に総合相談窓口への周知を進め、相談しやすい関係を構築する。 ○地域において「心配な高齢者」に対する感度を高め、早期発見・早期支援につなげる。
活動内容 (具体的取組み)	(1) 本庄UR住宅におけるカフェ活動支援 運営会議 毎月1回 開催日 7月25日 夏祭り 10月26日 健康体操 12月21日 クリスマス会 3月28日 健康講演(コロナ肺炎の影響で中止) (2) 認知症カフェによる専門相談 大淀老人福祉センター 1階会議室 毎月第三木曜日 14：00～15：00 大淀包括支援センターとの協働で専門相談を実施 2月20日 認知症予防を目的とした講演会を開催（令和2年度も開催予定） (3) 本庄地域食事サービスにおける周知活動 毎週水曜日に開催される食事サービス時に訪問し、周知活動を実施
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	(1) 毎月会議を開催でき、カフェについても3回開催できた。年間を通して活動を継続できたことで、次年度以降のカフェ活動継続に向けて住民の自信を深める結果となった。その為次年度以降については、毎月の会議とあわせてカフェを毎月開催し、3回講演会を行うことが決定した。 (2) 周知が進み、相談目的で訪問される方が出てきた。また大淀老人福祉センターを普段利用されている方の中で最近の様子が心配な人にカフェ参加の促しがあるなど、包括的な相談の場としての体制が構築できた。 (3) 気軽に声をかけていただけるようになるなど、顔の見える関係が構築できた。高齢者虐待防止のパフレットを配布するなどの権利擁護、人生会議（ACP）の資料配布するなど啓発活動、などをを行い様々な情報提供とができた。
今後の課題	(1) スタッフ・参加者が固定化がみられ、参加者の増加を目指し、月に一度小規模でも定期開催を目指すしていく。 (2) 相談者が増えるよう、個別訪問時にカフェの周知活動を行う。今年度も講演を開催し、新規参加者の増加を目指す。 (3) 気軽に相談してもらえよう、周知活動を行っていく。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に向けるコメント (区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	UR住宅におけるカフェの継続した活動を地域住民と共に取組み、次年度の更なる活動につなげるよう支援したことは評価できる。今後も日々の活動から、地域と共に高齢者支援のネットワーク構築を図り、地域高齢者と地域をつなぐ取組みを行ってほしい。また、ランチの活動の周知も強化してほしい。

令和元年度総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

名称

港南地域総合相談窓口（ブランチ）

活動テーマ	続・地域に出向こう！気軽に相談が出来る相談窓口の周知に向けて。
地域ケア会議から 見えてきた課題	世帯が複雑化し課題を多数抱えているケースが増えている （・8050問題 ・親に対する経済的依存 ・同居者が精神疾患を抱えている ・非衛生的な環境 ） 閉じこもりや地域から孤立している高齢者の見守り体制の構築が必要。 独居で認知症が進行・重度化している高齢者の早期発見と早期対応。
対象	・複合的な課題を抱えている世帯 ・地域から孤立している高齢者 ・認知症が進行・重度化している高齢者。
地域特性	【市 岡】比較的新しい世帯数の多いマンションや戸建ての住宅が多い一方、昔ながらの戸建ても多い。港区の11校下の中では高齢化率は一番低く22.3%である。 【田 中】マンション、ワンルームなど集合住宅が多い一方で、昔ながらの戸建てや文化住宅も多い。高齢化率は27.0%であり11校下では5番目である。 （平成31年3月31日時点。港区全体の高齢化率は27.2%であり市岡・田中共に港区全体の高齢化率より低い。）
活動目標	・早期発見・早期対応によりケースが困難化する前に支援介入が出来る、地域や専門他機関との関係づくり。 ・地域で孤立せず、地域との繋がりが持てる高齢者を増やす。
活動内容 （ 具体的取組み ）	【市 岡】地域で開催されている健康笑顔サロン、いきいきサロン、いきいき百歳体操に参加し、その場での地域関係者との情報交換や相談対応、イベント後の見守り訪問などを行う。また参加高齢者と直接の会話の中での状態の把握や相談対応を行う。ネットワーク委員会、連合振興町会等の会議に参加し、港南ブランチが認知症、介護サービス、権利擁護など高齢者の総合相談窓口である事の周知、顔の見える関係の構築、その場での地域関係者との情報共有、相談対応を行う。 【田 中】いきいき百歳体操、いきいきサロン、田中食堂、喫茶れもんに参加をし、その場での地域関係者との情報交換、情報共有、相談対応、顔の見える関係の構築に努める。また参加高齢者と直接的な会話や関わりの中での状態把握や相談対応を行う。民生委員協議会の会議に参加し、作成したチラシを用いて港南ブランチが高齢者の総合相談窓口である事の周知、高齢者虐待の通報窓口である事の周知及び虐待の種類についての説明、防止に向けての啓発を行う。 月に一度、港区社会福祉協議会にて開催されている、地域見守りコーディネーター連絡会にもほぼ毎回参加し、担当圏域内外の地域見守りコーディネーターと連携支援体制の構築に努める。
成果 （ 根拠となる資料等があれば添付すること ）	上記活動による会議開催・参加状況であるが下記の通りである。 【その他ネットワーク構築の為に会議】 → 令和元年度48回 【地域等との関係づくり】 → 令和元年度54回 コロナの影響で会議やサロン等の参加回数は昨年より減っている。
今後の課題	【市 岡】令和元年度はネットワーク委員との繋がりを強化する為、ネットワーク委員会の定例会への参加に特に力を入れたが、引き続き今年度も毎月の参加を目指していく。また連合振興町会・町会長会議への参加も依頼を行い各町会との連携強化に努める。 【田 中】いきいき百歳体操、いきいきサロン、田中食堂、喫茶れもん等に参加し今後も関係づくりの維持と構築を行う。いきいきサロンは田中会館、夕風会館、老人福祉センターと3か所で行われており、出来るだけの参加を目指す。また民生委員協議会などの地域の会議に参加依頼を行い、地域との連携の強化に努める。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月14日（火）
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （ 拡張性 ） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （ 区地域包括支援センター 運営協議会からの意見 ）	市岡・田中地域で開催されるサロン・喫茶・百歳体操に積極的に参加し、地域との連携強化・情報共有に力を入れている。今後も、民生委員協議会等への参加を試みるなど新たな繋がりを築き、地域課題に対し深く関わっていくように願う。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称

市岡東地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	孤立している高齢者へ社会とのつながりをつくる
地域ケア会議から 見えてきた課題	社会から孤立している高齢者が存在する 社会とのつながりやサービス利用を拒否する高齢者がいる
対象	見守り、支援が必要な孤立している高齢者
地域特性	波除（波除・市岡元町）：市営住宅が9棟ある 高齢化率は23,0% 独居世帯数（H27年度国勢調査）は776世帯 南市岡：高齢化率は27,3% 独居世帯（H27年度国勢調査）は665世帯
活動目標	孤立している高齢者を把握し、社会とのつながりをもてるようにすすめる
活動内容 （具体的取組み）	・介護予防教室（いきいきサロン）、地域活動（ふれあい喫茶、ふれあい食事サービス、いきいき百歳体操）への参加や法人主催の地域サロン・いきいき百歳体操をを共催し、地域の方へランチの周知を行なった - いきいきサロンは担当圏域内にて3カ所実施されておりほぼ毎回参加した - ふれあい喫茶は市岡元町（波除地域内）と南市岡で実施されているものに参加 - ふれあい食事サービスは波除地域内で2カ所同日実施されており、港区地域包括支援センターの方と月交代でほぼ参加、南市岡はほぼ毎月参加 ・地域活動に参加する中で、地域見守りコーディネーター、地域ネットワーク委員、民生委員の方々と顔の見える関係づくりや情報共有を行なった ・関係機関との連携 ・一人暮らしの高齢者宅へ安否確認も兼ねて定期的に訪問を行なった
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・地域見守りコーディネーター、地域ネットワーク委員、地域住人、担当圏域近隣にある歯科クリニックより孤立している高齢者の相談を受けた ・港区地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、見守り相談室、障がい者基幹相談支援センター、港区社会福祉協議会地域支援担当、港区役所保健福祉課（高齢担当、地域担当保健師、精神保健福祉相談員、第2支援ケースワーカー）、介護支援専門員の方々と連携し、支援を行なった ・定期的な見守り訪問を行ない、時間をかけて関係づくりをして介護保険のサービスやインフォーマルなサービス、地域活動の参加へつなげることができたケースがある - 有償ボランティア、配食サービスの案内、ふれあい喫茶、いきいきサロンへの参加等
今後の課題	・孤立し、社会とのつながりのない高齢者を把握するため、これまでとは違った周知活動を行なう必要がある ・介護保険のサービスをすぐに利用することが困難なケースもあるため、インフォーマルなサービスも視野に入れて支援を行なえるように、常に情報収集をしておく必要がある
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月14日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	地域活動に積極的に参加することが、市岡東ランチの普及・啓発に繋がったと考えられる。一人暮らしの高齢者宅への定期訪問も、地域の方の見守り活動と連携することで、よりきめ細やかな支援へ広がりをもせるので、引き続き取り組んでいただけるよう願う。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称

築港地域総合相談窓口（ブランチ）

活動テーマ	圏域全体の相談件数を増加させてより多くの人の支援にあたる
地域ケア会議から 見えてきた課題	集合住宅の住民は地域関係者や近隣住民との関係が希薄で、認知症の進行や生活困難な状況が潜在化している事が多い。また、自治会役員が輪番制などで毎年変わり、見守りや相談をつないでいただく役割としては弱い実状がある。自治会等の組織自体がない、町会等の地域組織に加入していない集合住宅も多い。
対象	圏域内の集合住宅の住民
地域特性	高層を含めた市営住宅が多く高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準にある。ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りＣＯとの繋がりも強い。
活動目標	地域関係者や関係機関との連携を深め協働して支援する体制を構築する。 認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見。
活動内容 (具体的取組み)	ネットワーク委員会、見守りコーディネーター、民生委員協議会の会議への積極参加。ラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事会や各種サロン活動に参加し、地域関係者との関係強化に努めると共に地域高齢者へのランチ周知に努めた。退院後の支援や病院受診を円滑に勤めるため、地域医療連携室との情報の共有など連携に心がけた。いわゆる困難ケースに対しては早い段階から地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームと連携し協働して支援にあたった。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	令和元年度は築港、港晴両地域の出張相談会を各圏域2箇所ずつに増やした(昨年度までは各圏域1箇所ずつ)。対象としている集合住宅(UR賃貸)の集会所をお借りすることが出来、集合住宅住民の身近な相談窓口を設置できた。特に近年の地震、台風による被害から防災への関心が高まっていることから、築港地域では防災セミナーを開催し、地域住民へ相談会だけでなく役立つ情報の提供が行えた。
今後の課題	新しい場所での相談会は周知が不足しており、相談人数を増やすことが今後の課題。また、既存の場所での相談会は同じ場所で5年以上行っており相談に来る人が一巡して減少している。アウトリーチの手法として、民生委員やNW委員、各専門機関と連携しながら戸別訪問にも積極的に取り組んでいく予定。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月14日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	築港・港晴地域の出張相談会を各2か所に増やすなど積極的な取り組みをしている。住民の関心が高いテーマをわかりやすく説明し、正しい情報提供を行うことが高齢者の心の安らぎに繋がっていく。今後も引き続き地域住民との交流を深め、支援を必要とする、より多くの人に関わるよう願う。

令和元年度総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

名称	日本橋地域総合相談窓口（ランチ）
----	------------------

活動テーマ	相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のふれあいの場づくり ～連携と協働の為に体制づくり～
地域ケア会議から 見えてきた課題	・低家賃・単身者向けの住宅が多くあり、生活保護受給者や低年金者、独居高齢世帯の割合が高く、住民同士の交流も少ないため、認知症や病気、困り事に気づいてもらう事が難しく、又、自ら訴える事も少なく、気づいた時には重篤化している事が多い
対象	恵美・新世界 日東 日本橋
地域特性	○日東地域は、市営住宅が多くあり、昔からの住民や親せき関係の入居が多いが、孤立する人も増えてきている。 ○恵美・新世界地域は、流入入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄なため、生活状況の情報収集が難しく、独居男性が多く、孤立しやすい。生活保護受給者多く、金銭管理に問題を抱えている人も多い ○日本橋地域は、昔から商売をしていた人が多く、高齢化してきたことにより、自宅周囲から出かける事が少なくなり、繋がりは希薄化しつつある
活動目標	1. マンションや集合住宅管理人、家主等地域関係者へ総合相談窓口の周知活動を行う事により、顔の見える関係づくりから、相談につながるようにする 2. 定期的な訪問やチラシの配布を行う 3. NWSと協働し、訪問活動やふれあいの場作りの提案をする
活動内容 (具体的取組み)	恵美・新世界・日本橋地域のNWSと共に独居高齢者、認知症高齢者の多く住むマンションやアパート管理人や地域関係者を毎月訪問し、ランチの周知を行う 訪問場所としては、アパート、マンション以外に高齢者に関係する場所として、タバコ屋、喫茶店、酒店等高齢者がよく行く場所へのチラシ配布や相談窓口の啓発を行った。 ふれあいの場づくりとして、新世界地域では、百歳体操の後、月に1回、認知症や介護予防の啓発を実施する事が出来ている 恵美、日本橋、日東地域においては、食事サービスの後、不定期だが脳トレ体操等を実施し、認知症予防、介護予防の啓発と共に、ふれあいの場作りとして、担い手の後方支援に協力している。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1については、地域関係者から継続して相談がある (R年度相談上期56件、下期49件) 2については、定期的な訪問により、ランチ、NWS、地域の繋がり強化が図れた (R年度相談上期26件、下期36件) 3については、新世界、日本橋、恵美地域では、毎月1回の地域訪問活動が定着した。新世界地域では、毎月第2火曜日の百歳体操終了後はふれあいの場として脳トレ体操や認知症、介護予防の啓発活動が定着し、地域の方から楽しみにしているとの声が多く聞かれる。参加人数も増えてきている。
今後の課題	生活保護受給者が多い地域においては、金銭管理に課題を抱えている方も多く、問題が出てきた時には迅速に対応出来るようにする必要がある。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月27日(月)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性
今後の取り組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	ブランチ圏域内、4地域の特性を把握し、問題の早期発見をめざして、総合相談窓口周知、地域のふれあいの場づくりに取り組んでいる。 今後の課題もみえており、地域や関係機関と協働し、解決に向けた取り組みを期待したい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称

大池地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	ランチの周知と認知症の方々やご家族に対する支援を推進する。
地域ケア会議から 見えてきた課題	支援が必要な方の早期発見・早期対応。
対象	地域の認知症高齢者
地域特性	昔ながらの木造住宅が密集しているエリアがあり、長年住んでおられる方が多い。 地域住民の高齢化が進んでいる。
活動目標	・地域の行事等、開催時にランチの周知活動を引き続き行う。 ・中川オレンジカフェを活用し、地域の認知症の方々に支援する。
活動内容 (具体的取組み)	・令和元年度も、熱中症予防の見守り訪問を町会の役員、区社協、鶴橋地域包括支援センターと協力して実施した。同時に、相談窓口である大池ランチのチラシを配布し、ランチの周知を行った。 ・町会未加入のマンションに、オレンジチーム、鶴橋地域包括支援センターと協力して各機関のチラシのポスティングを行った。 ・中川オレンジカフェ（認知症カフェ）の開催。 毎月第3金曜日に特別養護老人ホームレインボー今里の1階のカフェスペースにて認知症予防体操や工作・ゲームレクリエーションを行い、認知症の方と地域住民が触れ合う場所の提供した。また、家族様の相談にも対応することが出来た。
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	・熱中症見守り訪問や地域での活動を通じて、住民の方から相談をいただき支援することが出来た。 ・認知症がある方に、中川オレンジカフェに参加していただき、カフェの中で一定の役割を持ってもらったり、楽しみに感じてもらえる居場所づくりができた。
今後の課題	認知症に関する相談件数が少なかった。相談機関としてのランチの周知をより積極的に行い、認知症に関する相談・支援を増やしていきたい。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月22日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	ランチの周知活動に取り組むことにより、相談しやすい環境づくりを強化している。認知症カフェを開催し、認知症の方に役割を持って参加してもらうなど居場所づくりに取り組んでいることは評価できる。

令和元年度総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

名称	生野東地域総合相談窓口（ランチ）
----	------------------

活動テーマ	・地域の実態把握と総合相談窓口の周知活動 ・地域における認知症当事者や、そのご家族に対する支援体制の構築
地域ケア会議から 見えてきた課題	・独居の認知症高齢者の支援には、地域との連携やネットワークの構築が必要である ・地域の課題を把握する為には、地域関係者と連携を図ることが必要である。
対象	当総合相談窓口担当の圏域内に暮らす高齢者やその家族、地域関係者やボランティア、地域住民、その他関係機関など
地域特性	生野区の中でも特に高齢化率の高い地域のひとつで、古い木造文化住宅が多く、商店街や銭湯など昔ながらの街並みが残っている。その一方、徐々に新しい住宅も立ち並び始めている。地域の町会活動や地域行事等は比較的盛んであり、隣近所の交流も残っている地域も多い。
活動目標	・地域住民との連携を図る為、地域活動に参加し、「顔の見える関係」を構築する。 ・総合相談窓口が「気軽に相談できる窓口」であるという事の周知と啓発活動を行う。
活動内容 (具体的取組み)	● 生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施 生野地区運営委員会、地域包括支援センター、ランチの共催にて、生野東連合の高齢者を対象とした熱中症予防の為の戸別訪問を実施。熱中症の注意啓発と同時にエアコンの使用状況や、介護サービスの利用状況、困り事の相談相手などがあるか等の聞き取りを行い、それに加えて老人憩の家での催しや当窓口の紹介など社会資源の情報提供を行った。 ● 西生野地域 町会戸別訪問（町会未加入世帯へのアプローチ） 西生野連合における町会未加入世帯の実態把握とニーズの掘り起こしを行う為、民生委員や地域包括支援センター・社会福祉協議会・地域福祉コーディネーターと連携し、2つの町会世帯を訪問し、地域特性（空家や空地、病院の数など）や、可能な範囲の世帯状況の聞き取りをする等、情報収集をおこなった。 ● 認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 奇数月に認知症カフェを開催。認知症理解の為の講習や認知症予防の為の脳トレや運動を行うなど、関心を持っていただけるような仕組み作りを心がけた。
成果 (根拠となる資料等 があれば添付すること)	● 生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施 生野東連合164名の高齢者宅を、地域包括支援センター・地域福祉コーディネーターと共に訪問した。地域福祉コーディネーターが同行する事で、より詳細な情報収集と実態把握することができた。その結果を地域運営委員会にてフィードバックする事で、情報共有した。 ● 西生野地域 町会戸別訪問（町会未加入世帯へのアプローチ） 西生野連合の2つの町会全世帯を訪問した。民生委員と共に訪問する事で、地域住民の受け入れが良くスムーズな対応となり、詳細な情報を得る事に繋がった。同時に困りごと相談窓口のチラシを配布する等の啓発と、各種社会資源の情報提供を行った。 ● 認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 毎月10～20名程度（認知症当事者やそのご家族、地域住民など）の参加があり、毎回参加される方同士でのコミュニティもできていた。また、認知症当事者やそのご家族からの相談支援にも繋がった。
今後の課題	・地域関係者および民生委員等とより連携を深め、地域の実態把握に努める。 ・ニーズの掘り起こしを行い、必要時は迅速・柔軟に連携できるようにしていく。 ・引き続き総合相談窓口の周知・啓発活動を行う

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月22日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	地域特性を踏まえながら、各種個別訪問を各連合町会と協働し積極的に行われており、地域に浸透していることが評価できる。また、認知症カフェも開催し、当事者の支援に努めている。

令和元年度 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取り組み報告書

名称	田島 地域総合相談窓口（ランチ）
----	------------------

活動テーマ	認知症になっても住み続けられる地域に向けて、 早期発見、早期相談のできる関係づくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	○異包括圏域の地域ケア会議にて、認知症が進行してからの相談が多く、被害妄想等の周辺症状から地域の中で近隣とトラブルになり、孤立してしまうケースがあり、早期発見・早期相談できるようにすることが課題として見えていた。 ○令和元年夏頃に、前頭側頭型認知症の症状により、近隣の方の家に勝手にあがり、物を盗る等の行動症状があり、地域でトラブルになったケースがあった。地域では、アルツハイマー型認知症による物忘れ以外の認知症や症状についての認知度が低く、どう対応したらいいのかわからないという声があがった。
対象	地域住民
地域特性	○65歳以上の高齢者数3754人、高齢化率35.9%、外国籍(特に韓国・朝鮮籍)の方が多い。 ○田島地域は、古いまちなみが残る地域で、メガネレンズ産業が盛んで現在も家内工業が多数存在する。 ○生野南地域は、北側と南側とでまちの雰囲気異なり、北側は昔ながらの下町で、商店街やスーパーがある。南側は工場や倉庫が立ち並んでいる。
活動目標	○認知症に種類があること、物忘れ以外にも症状があることを知って頂き、認知症の方やその家族への理解を深める ○認知症初期集中支援チームと連携を強化する
活動内容 (具体的取組み)	○異包括支援センター、認知症初期集中支援チームと連携をとり、家族介護支援教室にて「認知症の気づき講座」を開催した。 ・生野南地域 10月30日 40名 ・田島地域 11月26日 31名 ○講座内容 認知症に関する基本的な知識(アルツハイマー型、前頭側頭型) 認知症かも?と気付くポイント 認知症の方との接し方のポイント 講座終了後 「意見交換会」を開催 「自分が認知症になったら」をテーマに認知症について参加者の方でざくばらんに話をしていただき、出た意見を共有する時間を設けた。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○認知症初期集中支援チームと各地域で認知症に関して相談のあったケースをもとに、講座の内容について検討を行ったことで、連携の強化につながった。 ○意見交換会の中で、「認知症になりたくない」「周りに知られたくない」「一人暮らしだから気付けないかもしれない」「おかしいと思ったら教えてほしい」「気付いたら病院に連れて行ってほしい」「普段から近所と話をしていかなあかん」といった声があがった。 ○なりたくない、知られたくないという意見も多かったが、「認知症かもと思ったら直接声をかけてほしい」「お互いに言おうね」という意見を地域の方から聞くことができ、地域の中で、認知症になっても今までと変わらずにかかわって大丈夫だということ意識していただくきっかけになった。また、困った時の相談先(包括・ランチ・オレンジチーム)についても知っていただくことができた。
今後の課題	○今後も認知症に関連したご近所トラブル等の相談の増加も懸念されます。認知症の理解を地域でさらに深めていけるように、気づき講座や認知症サポーター養成講座を開催し継続的に啓発を進めていくこと。 ○地域の方が相談支援機関をうまく活用できるように、積極的に地域行事等で包括・ランチの周知・啓発を行い、相談のしやすい関係づくりを継続して行うこと。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月22日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	認知症について講座を開催することにより、地域住民へ啓発し、認知症になっても住み続けられる地域に向けて、早期に相談につながるよう活動したことは評価できる。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 新生野地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取り組み。 高齢者への認知症予防対策。 地域住民（若い夫婦世代・児童含む）に対する、認知症啓発
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居認知症高齢者への、周辺住民の認知症に対する理解不足。 地域役員含む周辺住民への啓発が必要。
対象	地域在住高齢者及び住民・地域振興会・民生委員
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。
活動目標	高齢者から子供に至るまで、全ての世代への「認知症」啓発
活動内容 （具体的取組み）	・認知症カフェ（ゆったりカフェ）の実施 瑞光苑ロビーにて第一土曜日に実施。 ・出張認知症カフェの実施（瑞光苑まで来れない方対象） ・巽東小学校での認知症サポーター養成講座の実施 対象：3年生・6年生及びその親とPTA役員 ・地域行事への参加（サロン月1回・喫茶月1回・食事サービス月2回など） 地域包括支援センターとランチの啓発、認知症予防などの情報提供実施。 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防啓発 広報ランチを制作し認知症予防の情報を発信 ・家族介護者教室での「歌って楽しく認知症予防」のセミナーの実施
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・認知症カフェ等のイベントへの新規参加者の増加。 ・児童と見守隊とのコミュニケーション増加 （挨拶や会話をしている姿の増加） ・チラシによる町会未加入者からの問い合わせ：0件 ・家族介護教室： 6/15実施 巽東高齢者及び巽東住民 49名参加 11/16実施 巽東高齢者及び巽東住民 42名参加
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見早期対応や地域で見守れる町づくり。 ・若年世帯（別居世帯）への認知症早期発見、相談窓口の情報提供。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月22日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	小学校での認知症サポーター養成講座をしたり、また、認知症カフェを実施するなど、高齢者から子供に至るまで、全ての世代への「認知症」啓発を積極的に行っている。また、地域行事でランチの周知を継続して行っているなど、活動は評価できる。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称	新異地域総合相談窓口（ブランチ）
----	------------------

活動テーマ	様々な世代の地域住民の方々にランチの機能、役割を知っていただけるように周知活動に努め、顔の見える関係づくりを構築し、何かあれば気軽に相談してもらえるような身近な存在になる。
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症の進行により金銭管理、服薬管理、スケジュール管理が困難になり介護サービスや通院も地域行事参加にもすべてに支援が必要な状態になっている方を、地域福祉コーディネーター、包括、遠隔地の兄弟に集まっていたいただき本人様をどう支援していくかを話し合う。地域の中にも認知症が進行して、支援が必要な独居高齢者が沢山おられると思う。そんな方たちの掘り起こしと、その方が住み慣れた地域で尊厳ある、その人らしい生活が継続できる様、関係機関と連携し多職種協働による高齢者支援のネットワークづくりが必要であると考えます。
対象	異南在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関
地域特性	明治22年に大地、四条、伊賀ヶ、矢柄、西足代の5村落が合併したことで、「異村」になった。昔からの家も多く、地の人たちの村意識が強い その反面、マンションや戸建てが増え、若い人の定住が増えた。ワンルームマンションも増え、独居高齢者の他地域からの移住も増えてきている。町会内には、スーパーもなく、コンビニエンスストアも一軒しかない。地下鉄やバスは通っているが、バスは1時間に1本しか走っておらず、役所に行くにも乗り換えていかなければならず、交通は不便である。
活動目標	包括、ランチの周知活動を行い、困りごとを気軽に相談していただける顔の見える関係づくりを構築する。行政、医療介護連携相談室、オレンジチーム、見守り相談室、包括、地域福祉コーディネーター、と連携し課題の早期解決に努める。
活動内容 (具体的取組み)	・地域交流スペースいらかフェで映画鑑賞会開催 ・異南食事サービス、いきいき教室へ参加し、包括、ランチからの啓発活動を行う。 ・異南お花見サロン、異南クリスマスサロン、100歳体操、体力測定、かみかみ百歳体操、シャキシャキ100歳体操のお手伝い。 ・朝市、防災デイキャンプ、わくわくレクリエーション、雪まつり手伝い。 ・サンタ大作戦（町会に加入されている80歳以上の独居高齢者宅に小学生と一緒に訪問し、プレゼントと「まずは相談」のパンフレットをお渡しする。） ・100歳体操4周年イベント参加 ・生野こうつう会議参加 ・家族介護者教室 2019年06月21日（金）「音楽リハビリ」 2019年11月29日（金）「聴導犬と共に生きる」 ・在宅認知症、在宅高齢者支援NW会議、ランチ連絡会参加
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域の行事に企画から積極的に協力させていただいて、新異ランチの存在を多くの地域住民に周知していただけるようになった。 おかちやまオレンジチームと協働し、認知症の方の認知症専門医の診断、治療に繋がったり、医療機関とも連携し、成年後見制度の説明や安心サポート事業に繋げるようにした。
今後の課題	町会に加入してる、高齢独居の方にはサンタ大作戦で戸別訪問し、「まずは相談」のパンフレットの配布を行い、何かお困りごとがあれば、いつでも声をかけていただけるよう話すことは出来たが、町会に未加入の方や、地域行事に参加されていない方たちの実態把握を、各町会長、民生委員、地域関係者と連携を深め更なる地域の実態把握に努めなければいけない。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月22日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	ブランチの周知活動を強化することにより、地域からの相談が増えたことや、地域でのイベントも多い中、地域と協力してイベントの企画から参加し地域との連携を図っていることが評価できる。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称	昭和地域総合相談窓口（ブランチ）
----	------------------

活動テーマ	早期発見・早期対応に向けた地域へのアプローチ
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居高齢者や子と同居世帯が多く、認知症高齢者や経済的課題を抱えているケース、キーパーソンである家族に障がいがあったり支援を拒否する等の課題があるケースが増大しており、これらの課題を抱えたケースが重篤化してから表面化する事も多い。重篤化を防ぐ為には、早期発見・早期対応が必要不可欠であり、地域に向けて積極的にアウトリーチを行ない、地域とのネットワークの強化や各支援関係機関との連携強化、地域住民に向けた相談窓口（ランチ）の周知等の強化が求められる。
対象	長池地域住民、各地域関係者、各関連支援機関
地域特性	南北に長く、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。公共交通機関の利便性が確保されておらず、交通弱者問題が発生し、未だ解決されていない。地域によって経済格差が多いのも長池地域の特徴である。
活動目標	既存のネットワークの強化、地域活動への積極的参加、個別訪問の強化 地域住民のに向けた相談窓口の周知や幅広く情報収集や情報発信ができる場の確保 ランチの知名度向上
活動内容 （具体的取組み）	・小地域ケア会議（チーム長池）を定期的に開催し、民生委員や町会等の地域関係者と各関連支援機関で、個別ケースや地域課題等の情報共有及び対応に向けた検討 ・認知症や介護予防等の講演会、家族介護者教室、道に迷われた方への声かけ訓練等を開催し、地域住民向けに幅広く情報を発信（別紙資料参照） ・地域福祉コーディネーターと密に連携を取り、積極的に地域に出向き、食事サービスや百歳体操等の地域活動への参加や、個別訪問等を通じて要支援者の早期発見・早期対応、ランチの周知
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	上記活動内容を通じて、積極的に地域に向けたアウトリーチを実施してきた事で、早期に対応できたケースや、ランチの知名度向上に繋がった事で、地域住民や地域関係者からの新規相談件数も昨年度より増えている。活動による一定の成果はあったと思われる。
今後の課題	表面化されていない課題を持つケースや関連支援機関等が把握できていないケースが未だに多く存在し、より一層課題ケースの掘り起こしを行ない、早期発見・早期対応・重篤化防止に向けた取り組みが必要である。また、多くの地域住民に身近に相談できる窓口として、ランチの存在を知ってもらう為にも、引き続き知名度向上に向けた取り組みが必要と考える。今後もこれらの取り組みに向けて、地域とのネットワーク強化や各支援関係機関との連携強化、地域活動への積極的参加、個別訪問の強化を図っていきたい。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月27日(月)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	コロナ禍でも頑張っている。感染症の流行が続く中、どのように活動を行っていくかが今後の課題である。 多様な活動ができている。地域としてもありがたい。褒めたい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称	矢田東地域総合相談窓口（ランチ）
----	------------------

活動テーマ	早期相談につながるための地域・専門職とのネットワーク作り
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症であることが大半を占めている。独居もしくは夫婦のみ世帯であり、親族の継続的な支援は期待できないことがほとんどであるが、家族と連携をとることで物事が大きく進むといったケースもあった。 ケアマネジャーがついていても介護拒否や金銭管理をめぐるトラブルも多く、後方支援を含め総合相談としての関わりが長期化しており、支援の目途がつかずに平均2年半ほどかかっている。 早期の段階では問題として気づいてもらいにくい環境にあり、状態が悪化してから対応となる為、道筋を整えて行くのに時間がかかったり、今すぐに打てる手立てがない、といった形で長期化するケースが増えている。
対象	地域関係者、介護予防教室参加者、ケアマネジャー
地域特性	高齢化と人口減少のため地域活動の担い手が不足してきているが、昔ながらの住民のつながりは強い。地域の催しや見守り活動なども熱心に行われており、住民間の連携も密に取られている。介護予防への取り組みにも関心が高く、関係機関と情報共有しながらより内容のある予防教室が開催できるよう尽力され、参加者も増えている。 一方で他からの転入者や以前より地域とのつながりの希薄な人たちは孤立化しているという側面もある。
活動目標	地域のつどい場への参加を通して、地域関係者、地域住民とのつながりを強化することで、新たな参加者が入りやすい環境を作る。 専門職にも地域の活動内容や、担い手の理解を深めてもらい、つどい場への参加を促してもらう。
活動内容 (具体的取組み)	地域の活動への参加 介護予防教室やその他のつどい場への参加を状態化させることで、参加者と顔の見える関係性を作った。 地域関係者との連携・協働 毎月の自治会幹事会議への参加や地域の会館を訪問を通して町会役員、地域福祉サポーター、民生委員との情報共有を行い、状況に応じて協力を得られるネットワークを作った。 専門職との連携 矢田包括主催のケアマネ向け研修会に参加し、圏域のケアマネとの関係づくりを行った。また協働した際には地域活動の紹介をし、新規に参加してもらえるようつなぎ役を担った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	については、顔の見える関係性ができてきており、つどい場で直接相談されるケースも増えて来ている。 については、見守りや情報収集など必要に応じた協力を得ている。 については、ケアマネから地域活動の問い合わせが入るようになった。
今後の課題	●地域のつながり、関係性がある人は周囲が勧めることで比較的早期相談につながりやすいと言えるが、そうでない人は周囲が何か気付いたとしても相談につながりにくい。“あまりよく知らない人”に関わることへの躊躇もあるだろうし、勝手に相談していいものか、という思いもあるよう。 地域のつどい場をうまく活用してもらい、あらたな関係性を築いていけるような支援や、地域の気づきを届けてもらえるようなネットワークの更なる強化を目指す。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月28日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	地域や関係機関との連携を丁寧につづけ、地域ケア会議の主催など主体的な取り組みを積み重ねているので、今後も地域でのネットワーク体制等しくみをつないでいくような活動を続けてください。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取り組み報告書

名称	矢田西総合相談窓口（ランチ）
----	----------------

活動テーマ	地域の行事や会に参加し、矢田西地域の住民へランチを知っていただく共に、相談しやすい関係作りを目指す。
地域ケア会議から 見えてきた課題	相談窓口の周知拡大と問題早期発見の関係・場作りが必要。特に地域行事に参加していない方は地域内での人間関係も希薄であるため、窓口として関わるのが少なく現状把握ができていない。
対象	矢田西全域の地域住民
地域特性	町会や女性部、自治会、民生委員などの見守りや声の掛け合いが多く、行事も盛んである。縦長の地域形態のため、1丁目の方が、3丁目への移動が難しく3丁目のコミュニティセンター等での行事や集まりに参加しづらい。
活動目標	既存の集いの場に継続して参加することを通して、顔の見える関係づくりに努めると共に、住民同士の横のつながりを広めて行くことで、集いに参加されていない方への関係づくりにも努めていく。ランチの広報紙を活用することで、ランチに直接に相談が入るルートを増やしていく。ランチ自身の個別支援へのスキルアップに努める。
活動内容 (具体的取組み)	「家族介護支援教室」の開催 年9回開催の開催月第4土曜日に、せいりょうにおいて地域に向けて様々なテーマで講義型・参加型の講座を開催。18名～21名の参加があり、その場ではランチの広報も行っている。 「転倒予防体操」「健康づくり教室」「食事サービス」「リフレッシュのつどい」等地域行事への参加 幅広く顔と名前を覚えて頂けるよう地域に出て交流を深めている。 相談窓口についての広報紙の作成と配布 地域の相談窓口であることを知っていただくために、訪問時や各体操教室、食事サービス等でも随時の情報提供ツールとして携帯し活用している。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	総合相談実件数124件（平成30年度120件、平成29年度131件、平成28年度128件） ランチへの相談件数46件（平成30年度46件、平成29年度40件、平成28年度26件） 地域のつどい場について、毎月参加することで顔の見える関係ができてきたと共に、住民同士のつながりを知り、広めることができた。また、参加者からは、ちょっとした困りごとも含めて相談していただけるなど、相談窓口としての認識とルートが深まっている。
今後の課題	包括・ランチのことを知ってはいても相談されずに地域で抱え込んでいるケースがあることが分かったので、相談窓口としてより活用しやすいものと認識いただけるよう働きかける必要がある。そのために地域のつどいの場の参加の折にもランチが相談窓口であることのアピールに努める。 また、介護サービス以外の社会資源についての要望も増えてきているので、それらに対応できるよう知識や関係機関との連携も相談員自身深めていく必要がある。
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月28日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援セン ター 運営協議会からの意見)	従事者が代わったが前任から引き継ぎ、家族支援事業等独自性のある活動が続けている。今後も取り組みを続けてください。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称

白鷺地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	高齢者とその家族の在宅生活を地域と一緒に支援できるように、町会の事業等に参加しランチに気軽に相談できる関係づくりを行う。
地域ケア会議から 見えてきた課題	一人暮らしで認知症を発症された場合、ご自分では生活が出来ていると思われているので外部からの支援介入が難しい。家族がおられても日常接しておられなかったり、認知症に対する理解が不足されていると本人の微妙な変化は見落とされていることがある。お隣り近所の方々が本人の変化にいち早く気づかれていることも多い。
対象	白鷺地域（今川地域、育和地域）の住民。
地域特性	古くからの住宅地で、長年住んでいる住民は、地域との関係性も深く、また、ボランティア活動や地域福祉活動が盛んで歴史も古く、地域の見守り体制が充実している。一方ではマンションやアパート等の町会未加入者で地域とのつながりが希薄な高齢者も多数居住している。
活動目標	地域の事業へ参加し、地域の方々と日頃からの情報共有と、相談先となれる良好な関係性づくりを行う。
活動内容 （具体的取組み）	地域で行われる事業「ふれあい喫茶」「けんこう教室」「百歳体操」等々への参加を通して、ランチの周知・情報提供を行い、相談を受ける機会を設けた。 区包括と協働で「地域福祉サポーター、見守り相談室との情報共有会議」また、北包括と協働で「ケースミーティング」を毎月開催し、支援が必要な高齢者とその家族情報や地域情報を毎回更新しながら共有を行った。 「めぐむ・くれない」通信の配布 年2回毎回10万部（新聞折込・地域会館・区内の介護事業者等への配布）やマンションへの包括・ランチのチラシの配布（個別ポスティング）で地域住民へのランチ活動の広報啓発を行った。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・地域の事業に参加し、総合相談窓口（ランチ）の周知・理解につとめ、地域福祉サポーターやボランティアの方々と顔の見える関係性づくりを積極的に行い、相談を受ける機会も増えた。相談件数：平成29年719件、平成30年994件、令和元年1381件。 ・定例開催している区包括、地域福祉サポーター、見守り相談室との情報共有会議や北包括とのケースミーティングで得た高齢者の情報により、地域の見守りや相談援助が必要な高齢者の在宅生活の継続につながった。
今後の課題	ランチの担当者が交代して1年が経ちました。地域の方々との関係性をよりよく築いていけるように、これからも総合相談窓口（ランチ）の理解、認識を広めていき、地域が把握された「気付き」が相談につながり、支援を必要とされる方に早期に関われるようになる。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月28日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	地域の活動に参加し周知を続けていて、ボランティアからの相談も含めて相談数も増えてきている。今後も包括とのスムーズな連携を続けてください。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称	喜連総合相談窓口（ランチ）
----	---------------

活動テーマ	新たな社会資源の創設と既存の集いの場の発展・活用について 【包括・ランチ合同事業】
地域ケア会議から 見えてきた課題	・集いの場を創設しようにも場所がなかったり（昨年度地域住民のニーズはあったが場所の問題で進展しなかった経過がある）、地域の役員の高齢化もあり中心的に運営に関わることへの負担が大きくなっている。 ・ランチ・包括が新たに集いの場を運営を行うことは継続性の面で負担が大きくなっている。
対象	担当圏域の高齢者を中心とした地域住民
地域特性	・公営住宅の多い地区では、集会所など集いの場を開催できる場所が豊富にあるが、一戸建ての多い地区では数が少なく、徒歩で通うのは困難な場所もある。 ・圏域の高齢者数は10233人、高齢率は30%を超えており、独居の高齢者も多くみられる。
活動目標	・地域住民が主体的に運営できる集いの場を創設し、安定的に継続できる環境をつくる。 ・圏域に1カ所集いの場を創設する。 ・ランチ・包括が運営する既存の集いの場を発展させる。（出張開催や障がい関係機関、子どもなどすべての地域住民が交流できる場へ発展させる試み）
活動内容 （具体的取組み）	集いの場の創設について ○平成31年4月26日 ランチ・包括で事業の進め方の打ち合わせ。会場の選定、内容案の策定をする。また、中心になって運営していただけたような協力者の候補を検討する。 ○平成31年4月27日～ 運営協力候補者への事業説明と協力依頼をする。 ○令和元年7月26日 ランチ・包括で進捗の情報共有をし、運営協力者との打ち合わせに向けて役割分担をする。 ○令和元年9月3日 運営協力者、ランチ、包括で打ち合わせ。内容（百歳体操）と開始時期と時間帯の決定をし運営協力者の中でリーダーを決め、他に協力者いただける方がいないかの確認、広報の仕方の検討する。 ○令和元年9月27日 ランチ・包括で打ち合わせ。今後の進め方の再確認と広報の役割分担をする。 ○令和元年10月9日 運営協力者、平野区役所、ランチ、包括で最終打ち合わせをする。開催頻度は毎週水曜日、初回は令和元年11月6日（水）13：30～ 場所は特養喜連の杜交流スペースで開催。掲示板にチラシをはり周知することが決定する。 ○令和元年11月6日～ 初回開催日であったが、参加希望者が多く2部制で実施する。（ランチ・包括、生活支援コーディネーターで運営の手伝い）以後2部制での開催。 ○令和元年12月～ 運営協力者だけの集いの場の開催に移行する。 ○令和2年2月12日 参加者にアンケートの実施（回答数31） ○令和2年2月26日～ コロナウィルス感染拡大防止のため開催中止。 包括、ランチが運営する既存の集いの場の発展・活用について ・こてつかフェまつり 令和元年11月17日（日）138名参加

成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	・圏域に1か所住民主体による集いの場を創設することができた。運営協力者、参加者ともに多く、地域のニーズに沿った形で支援することができた。 ・障がい者サービス事業所と地域の保育園の協力のもと、こてつカフェ祭りを初めて開催し、子ども～高齢者まで地域住民が交流する機会をつくることができた。 ・集いの場でアンケートを実施し参加者の性別、年齢層等の状況を把握することができた。
今後の課題	・集いの場は住民同士のネットワークを維持することへの役割は大きいですが、男性の参加者が少なかったり、受け入れ人数に限界がきている。今後は男性の方でも参加しやすいプログラムの工夫や地域住民が負担なく集いの場を運営できる環境が必要になってくると思われる。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月15日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性
今後の取り組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	集いの場の運営、継続はコロナ感染症の関係もあり難しいとは思いますが、各地域役員、住民の方も連携していただき、引き続き取り組んでほしい。 こてつカフェ祭りなど子どもから高齢者までの多世代が交流することは地域の活性化につながりよい仕組みである。 個別ケースの支援と地域づくりは両輪なので、地域福祉活動コーディネーター以外にも平野区社協との協働により、インフォーマルサービスが増え、地域全体で見守れるよう期待している。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称

喜連東総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	新たな社会資源の創設と既存の集いの場の発展・活用について 【包括・ランチ合同事業】
地域ケア会議から 見えてきた課題	・集いの場を創設しようにも場所がなかったり（昨年度地域住民のニーズはあったが場所の問題で進展しなかった経過がある）、地域の役員の高齢化もあり中心的に運営に関わることへの負担が大きくなっている。 ・ランチ・包括が新たに集いの場を運営を行うことは継続性の面で負担が大きくなっている。
対象	担当圏域の高齢者を中心とした地域住民
地域特性	・公営住宅の多い地区では、集会所など集いの場を開催できる場所が豊富にあるが、一戸建ての多い地区では数が少なく、徒歩で通うのは困難な場所もある。 ・圏域の高齢者数は10233人、高齢率は30%を超えており、独居の高齢者も多くみられる。
活動目標	・圏域に1カ所集いの場を創設する。 ・ランチ・包括が運営する既存の集いの場を発展させる。（出張開催や障がい関係機関、子どもなどすべての地域住民が交流できる場へ発展させる試み）
活動内容 （具体的取組み）	集いの場の創設について ○平成31年4月26日 ランチ・包括で事業の進め方の打ち合わせ。会場の選定、内容案の策定をする。また、中心になって運営していただけたような協力者の候補を検討する。 ○平成31年4月27日～ 運営協力候補者への事業説明と協力依頼をする。 ○令和元年7月26日 ランチ・包括で進捗の情報共有をし、運営協力者との打ち合わせに向けて役割分担をする。 ○令和元年9月3日 運営協力者、ランチ、包括で打ち合わせ。内容（百歳体操）と開始時期と時間帯の決定をし運営協力者の中でリーダーを決め、他に協力者いただける方がいないかの確認、広報の仕方の検討する。 ○令和元年9月27日 ランチ・包括で打ち合わせ。今後の進め方の再確認と広報の役割分担をする。 ○令和元年10月9日 運営協力者、平野区役所、ランチ、包括で最終打ち合わせをする。開催頻度は毎週水曜日、初回は令和元年11月6日（水）13：30～ 場所は特養喜連の杜交流スペースで開催。掲示板にチラシをはり周知することが決定する。 ○令和元年11月6日～ 初回開催日であったが、参加希望者が多く2部制で実施する。（ランチ・包括、生活支援コーディネーターで運営の手伝い）以後2部制での開催。 ○令和元年12月～ 運営協力者だけの集いの場の開催に移行する。 ○令和2年2月12日 参加者にアンケートの実施（回答数31） ○令和2年2月26日～ コロナウィルス感染拡大防止のため開催中止。 包括、ランチが運営する既存の集いの場の発展・活用について ・こてつかフェまつり 令和元年11月17日（日）138名参加 ・いきいきサロン 毎月第4土曜日 計9回開催、延べ423名参加 ○集いの場参加者へのアンケートの実施 いきいきサロンにてアンケートを実施した（回答数52）

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・圏域に1か所住民主体による集いの場を創設することができた。運営協力者、参加者ともに多く、地域のニーズに沿った形で支援することができた。 ・いきいきサロンを運営することにより喜連東ランチが広く地域住民に認知され、相談件数・来所の相談が増えている。 【延べ相談件数1053件(平成30年度)→1317件(令和元年度)】 【来所相談111件(平成30年度)→212件(令和元年度)】 ・障がい者サービス事業所と地域の保育園の協力のもと、こてつかフェ祭りを初めて開催し、子ども～高齢者まで地域住民が交流する機会をつくることができた。 ・集いの場でアンケートを実施し参加者の性別、年齢層等の状況を把握することができた。
今後の課題	・集いの場は住民同士のネットワークを維持することへの役割は大きいですが、男性の参加者が少なかったり、受け入れ人数に限界がきている。今後は男性の方でも参加しやすいプログラムの工夫や地域住民が負担なく集いの場を運営できる環境が必要になってくると思われる。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月15日(水)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☐ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	集いの場の運営、継続はコロナ感染症の関係もあり難しいとは思いますが、各地域役員、住民の方とも連携していただき、引き続き取り組んでほしい。 こてつかフェ祭りなど子どもから高齢者までの多世代が交流することは地域の活性化につながりよい仕組みである。 個別ケースの支援と地域づくりは両輪なので、地域福祉活動コーディネーター以外にも平野区社協との協働により、インフォーマルサービスが増え、地域全体で見守れるよう期待している。

令和元年度総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

名称 天下茶屋地域総合相談窓口（ブランチ）

活動テーマ	天下茶屋地域『男の座談会』の開催
地域ケア会議から 見えてきた課題	令和元年度は家主や民生委員、地域住民等からの相談が増加した。支援をする中で認知症や各種疾患が判り、多職種で関わるケースが目立った。各地域の集いの場に参加する女性は多いが、男性の参加者は少ない。総合相談件数から拾っていくと、女性より男性が多いと分析。一人で好んで自宅で過ごす男性もおられるが、中にはつながりを求めている、役割を与えられると地域の集いの場に足を運んだりするのではないかと。それは介護予防にもつながり、高齢者に張りのある生活にもつながると考える。
対象	天下茶屋地域の男性高齢者
地域特性	生活保護を受給する単身高齢者で、集合住宅で暮らす方が多い。地元住民とつながりが希薄で閉じこもりがちな高齢者が多い。いきいき百歳体操やふれあい喫茶、民間事業所が開催する集いの場もあるが、参加されている方は地元住民で女性が多い。
活動目標	地域住民と協働で、男性高齢者の集いの場・活動の場をつくる。
活動内容 （具体的取組み）	1. 天下茶屋小学校において、月1回地域住民を対象とした出張相談を行った。 2. 『天下茶屋ふれあい喫茶』にて相談窓口を設け、地域の困り事や介護サービスの案内、地域の集いの場の案内を行った。 3. 当施設3階で『いきいき百歳体操』を実施し、高齢者の介護予防に取り組むほか、地域での困り事、小さな悩みでも相談できるよう参加者との交流を深めていった。 4. 東部地域包括支援センターと生活支援コーディネーター、町会長を含め、地域関係者と協働で天下茶屋地域の男性高齢者への取組みについて、意見交換会を行った。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	1. 天下茶屋地域での出張相談、いきいき百歳体操等を継続することで、地域に天下茶屋ブランチの認知が進み、些細な事でも気軽に相談してくれるようになった。今後も顔の見える関係づくりを継続していく。2. 男性高齢者への取組みについての意見交換により、まず男性高齢者向けのニーズ調査（アンケートの作成）を実施することとした。しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発令により、地域活動が自粛され、ニーズ調査の実施には至っていない。
今後の課題	天下茶屋地域『男の座談会』を開催し、ニーズ調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で見合わせる事となった。地域活動の状況を見ながら、あらゆる機会を捉え男性高齢者のニーズ調査を実施していきたい。また、天下茶屋ブランチとしても、当施設の空きスペースを活用した居場所づくり等独自取組みを検討していきたい。地域活動が自粛される中、東部地域包括支援センターと連携し、あらためて地区診断も実施していきたい。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	地域の行事を拠点にブランチの役割を周知し、総合相談につなげている。また、男性高齢者の集いの場・活動の場の創設について、生活支援コーディネーター、町会長、東部包括支援センター、地域関係者と共に意見交換を実施した。幅広くニーズ調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より延期となった。今後地域と協働した取組みに繋げていきたい。

令和元年度 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称

山王地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	続・地域に広がるゆるやかな見守りへ向けて～居場所作りの拠点・顔の見える関係で繋がる～「よりあい」の開催やボランティアの取組みを通じて～
地域ケア会議から 見えてきた課題	経済的、生活全般においての相談が最も多く、認知症進行によるものや金銭管理困難等が発覚してから相談、介護未申請等が少なくない。また、単身高齢者が多く、どこに相談してよいか分からず困っているケースや自認していないケースもみられる。
対象	山王地域の住民
地域特性	昔ながらの町並みや近所付き合いが残る地域である。一方であいりん地域に隣接していることから身寄りのない、地域との繋がりが希薄な単身高齢者や生活保護受給率も高い。
活動目標	気軽に相談できる開かれた窓口として、地域に根ざすランチ。居場所・交流の場から、インフォーマルでゆるやかな見守り・支えあう地域としての意識を持った方が増えていくこと。ランチが地域の居場所の一端を担う拠点としてあること。
活動内容 （具体的取組み）	みんなで取り組むものを通じて交流できる「よりあい」というコンセプトに基づき1年を通じて催しを行った。5.7.9.12.2月に季節の花の「生け花アレンジ」、6.10月にボランティア団体による「手作り小物講座」を開催。（参加者は都度12人から20人前後であった。）また、5月の山王おまつり広場、8月の夏祭り、更には11月例年開催しているバザーをより地域との交流機会へ多様な楽しみ方をしてもらいたいとの思いから東部包括をはじめ、様々な団体やサークルにブースを出展してもらい、地域住民ボランティアにもご協力いただいた。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	「よりあい」は概ね2ヶ月ごとの開催でリピーターも定着していき、参加者同士の顔の見える関係や口コミから繋がる参加もみられた。年度最終の2月、参加者に年間を通じてのアンケート調査、振り返りを実施。ここに来るのが楽しい、継続してほしいとの声が多数あがった。その際にも東部包括や生活支援コーディネーターと連携し、提言等いただいた。その一方で、ゆるやかな見守りとして参加者から介入を必要とする方の情報提供や相談が数件寄せられ、それを基に支援へのつながりができた。日頃から住民と繋がっておられ、過去からの地域との関係性形成の賜物であった。また、地域やランチのイベントに協力していただいたボランティアの出入りもあり、社協のボランティアセンターとも繋がりができた。それぞれの特性において異なるニーズ・役割を活かして下さっている。
今後の課題	参加者自身も高齢化のため積極的に担う側としてのモチベーションまでは負担を感じている人も多い。拠点への地域へ参加方法 自発的なボランティアへ、ゆるやかに個々が負担とならない範囲で継続してもらえるような働きかけの工夫。また、居場所に来られない人、集団になじみにくい人、好まない人、孤立傾向にある人と地域の繋がり、ニーズを探っていく必要がある。それが「寄り合う」テーマ、形態の多様化に繋がっていきける在り方につながればと感じる。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	経年開催していた「よりあい」の内容を見直し、一年を通じた取組とした。地域の催しにも出店、広く周知を行った。口コミから繋がる参加者もみられ、リピーターも定着した。参加者の顔の見える関係を生かし、支援を必要とする方の情報連携に繋がったことは高く評価でき、更なる見守体制の構築に期待したい。

令和元年度総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

名称 成南地域総合相談窓口（ブランチ）

活動テーマ	高齢者の居場所作り
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居高齢者の居場所がない。 認知症の方が多い。 独居男性高齢者は地域との関りがほとんどない。
対象	千本地域にお住まいの高齢者。
地域特性	独居高齢者が多い。認知症の方が多い。 文化住宅が多い。生活保護受給者が多く、身寄りがない。
活動目標	毎月「百歳体操」「めぐみ喫茶」「りんどうのつどい」を開催して、高齢者の交流の場を提供する。
活動内容 （具体的取組み）	【百歳体操】 日時：毎月第1, 2, 4月曜日 13:30～14:30 場所：成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容：DVDを見ながら百歳体操を行う 対象：千本地域にお住まいの65歳以上の方 目的：閉じこもり予防、住民の交流の場の提供、介護予防 【めぐみ喫茶】 日時：毎月第3金曜日 13:00～14:30 場所：成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容：飲み物100円とおやつ50円の提供 対象：千本地域にお住まいの高齢者 目的：住民の交流の場の提供、成南地域総合相談窓口（成南ブランチ）の周知活動 【りんどうのつどい】 日時：毎月第3金曜日 13:00～14:30 場所：成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容：飲み物100円とおやつ50円の提供 対象：千本地域にお住まいの高齢者 目的：一人で行っても誰かと話ができる居場所の提供
成果 （根拠となる資料等が あれば添付すること）	独居高齢者の多い千本地域で必要なのは、一人で行っても誰かと話ができる居場所。そのために「めぐみ喫茶」の中に新たな機能として、一人で来られた方々が一緒になって話ができる空間を作った。令和元年11月1人で来られた方々3人を誘導し各々紹介したところ、参加者同士が交流を始め、お茶とお菓子を楽しみながら1時間半話をする時間が持てた。そこで新たな取り組みとして「りんどうのつどい」を立ち上げた。この空間作りによって、1人で参加する地域の高齢者を受け入れられる体制を整えることができた。現在は回りの白いテーブルクロスとは違うブルーのテーブルクロスを敷き、「りんどうのつどい」のプレートを設置して個別の空間を確保している。
今後の課題	まず、「りんどうのつどい」の周知活動、そして、参加者の拡大を図ることが課題となっている。以前一人で参加されて、誰とも話す機会がなく帰っていった人にも、再度声掛けをして参加を提案することをしていきたい。地域の定期訪問をしながら、閉じこもりの高齢者に声をかけて1人ずつ参加を呼びかけていくことも必要である。その他、独居男性高齢者の参加も課題である。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	3地区合同による「地域活動連絡会」にて、独居高齢者の多い千本地区では、1人でも参加しやすい環境が必要であると課題を確認。既存の「めぐみ喫茶」内に、新たなスペース「りんどうのつどい」を設け、1人で参加する高齢者も受け入れる体制を整えると、個々人の交流が可能となった。既存の資源を見直し、更に発展させるという発想について評価できるとともに、今後、閉じこもりの高齢者への誘い出し、利用者の増加について期待したい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 梅南・橘地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	地域関係者と専門職の協働による取組と仕組づくり（つながりの場づくり）「梅南うたごえくらぶ」
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域住民（関係者）と専門職のネットワーク構築（早期課題発見・早期支援）
対象	地域住民・地域関係者・生活支援コーディネーター・福祉コーディネーター・ボランティア・包括・ランチ
地域特性	地域活動が活発で長年住み慣れた住民間のつながりは強いが、一方で高層マンションの建設など地域環境の変化から町会未加入者も多く、つながりが希薄な高齢者も少なくない。
活動目標	誰でも参加できる住民主体のつながりの場づくりを、地域関係者と専門職の協働で行う事を積み重ね、ネットワークの構築を図る。
活動内容 （具体的取組み）	○開催日 第1回は6/24、第2回は9/30、第3回はR2/3/23に開催予定であったが、運営関係者で協議の結果、新型コロナウイルス感染予防の観点より中止を決定。 ○協働取組のプロセス （第1回事前打合せ会議） H30年度の3回の取組を振り返る。 各参加者より「活動は定着している」「継続して行く事は大切である」等、令和元年度も同様に取り組む方向の意見が出た。 「年3回開催」「継続しやすい形としてボランティア中心で取り組んで行く」「邦楽なども取り入れていく」「老人センターも取組に参加する」「5/20にネットワーク委員交えての会議を開催する」 以上を確認し合う。 （第1回取組 ネットワーク委員、講師交えての会議） ・年度を通じて各取組の最後は「ふるさと」の全員合唱で締め括る。 ・周知活動を含め各役割を確認。 周知について、梅南地域限定であるためあまり広範囲には周知出来ない。ネットワーク委員会の意見を汲み取り、連合会・配食・ふれあい喫茶での周知活動は行わない事を確認し合う。 ・ネットワーク委員会、区社協、包括、ランチと、各々の役割分担を設定。 ・今後の予定として9月に2回目、3月に3回目の開催を目指す事を決める。 （第2回取組 47名参加） ・9/30開催。老人センターで活動を展開する三味線サークルに講師を依頼。初めての試みで、会場設営から必要な機材の用意などで反省点もあったが今後の取組に活かせる点もあった。 （第2回取組の振り返り） ・アンケート結果より、地域行事に誘ってみたい近隣の住民が居る等、地域住民同士の関わりに意識の高い人が多い事などが伺えた。ネットワーク委員より、今後の地域活動強化の参考になったとの声もあった。 ・今後の取組として、うた声を通じ介護予防的なものにしても良いのではとの提案もあった。 ・次回開催は3月中旬から3月下旬を企画する。 （第3回取組に向けた事前打合せ） ・R2/3/23開催予定。 ・うた声くらぶの取組について、参加者の中から積極的に企画運営できる人を組織していこうと話が出る。ネットワーク委員会との協議の場で提案していく事を確認する。 （第3回取組） ・新型コロナウイルスの感染予防を考慮し、専門職間で開催の可否を検討した。公共団体主催の催し物は年度内全て中止との情報を得、中止がのぞましいとの意見が出た。また、地域関係者にも情報提供し、開催の可否を検討したが、専門職と同じく今回のうた声くらぶの開催は中止が望ましいと意見が一致した。 ・令和2年度の開催は、6月を第1回の目処とすることを確認し合う。

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○参加者全員が毎回楽しみにしており、梅南の地域に根付いた取組となってきた。 ○老人センターのサークルが初参加し好評を博した事もあり、今後は今まで以上に広範囲でボランティアの協力を得つつ取組を継続していこうとなった。
今後の課題	参加者自身が、より主体的に取組の企画運営に参加し、地域活動の担い手となっていくためには、専門職の支援が求められる。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	音楽を通じた介護予防とつながりの場「梅南うたごえくらぶ」の活動は定着しており、1回の参加人数が50名程度と好評である。今年度は老人センターの福祉コーディネーターを交え開催の内容を検討、更なる参加者の拡大に繋がった。ネットワーク委員より、この取り組みにより地域関係者と専門職との連携が地域での活動強化の参考になっているとの声が挙がっている。今後も継続性のある場となるような取り組みに期待したい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 南津守地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	地域の高齢者が気兼ねなく集まれる居場所作り
地域ケア会議から 見えてきた課題	男性の独居高齢者の地域参加が少ない。 高齢者の集まれる場所が少ない。
対象	主に南津守地域住民が対象だが、その他地域の住民も対象とする。
地域特性	北側には市営住宅、南側にはワンルームマンションが多く、独居や高齢世帯の方が多い。その反面、新たな住宅が増えている事もあり、地域関係が希薄な所もある。
活動目標	地域住民と協同して、誰もが気兼ねなく参加できる居場所作り
活動内容 （具体的取組み）	○あゆみ工房(南津守3丁目にある地域住民の方の持ち家を活用しての活動) ・歌みずきの会(歌の会) 日時：第2金曜日14:00～ 内容：講師2名を迎えて、童謡から歌謡曲までをみんなで楽しく歌う。 今年度は12月に白寿苑のイベントに参加させていただきました。 ・絵手紙サークル 日時：第3水曜日14:00～ 内容：地域の高齢者の方が講師を引き受けて下さり、毎回テーマを決めて の中に自由に絵を描いてもらう。 ・手作りの会(編み物の会より変更) 日時：第1・2・4・5水曜日 内容：編み物だけに限定せず、好きな物を作って、会話を楽しんでもらう ・囲碁・将棋・ポッチャ 日時：会が開催されているすべての日 内容：囲碁・将棋は男性の方が来てくれており、ポッチャは人気があり、参加者も増えており、大会への参加もしています。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	各会ともに参加者の数が安定している。ポッチャに関しては、参加者が友人を新たに連れてこられて増加している。社協や地域の福祉事業所でチラシ配布や掲示をしてもらっている事により、南津守以外の参加者が増えた。
今後の課題	南津守地域からの参加者が思うように増えていないので、参加してもらえるような企画やPRの検討が必要。会にただ参加するのではなく、何か目標となるものがある方が良いと思われる。また、ポッチャのように興味を持ってもらえるものを開催していく事も必要と思う。
以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☐ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	南津守地域の居場所「あゆみ工房」は、2019年2月に活動開始となり参加者の数が安定している。男性の独居高齢者の参加が少ないことが課題ではあるが、囲碁・将棋、は男性の参加があり、ポッチャにおいては男女問わず人気で、大会への参加もあった。今後も閉じこもり高齢者への誘い出しや南津守地区での周知を強化し、利用者の増加に繋がることを期待したい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 あいりん地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	人間関係の希薄な高齢者が繋がりをもてるよう支援 ～セルフネグレクト・支援拒否より～
地域ケア会議から 見えてきた課題	あいりん地域の高齢者は、地域とのつながりや親族関係が極めて希薄で、閉じこもりがちになり病院にも行かず、大家からの相談やケースワーカーからの依頼があった時には重症化しているケースが少なくない。また重症化しているにも関わらず、通院や支援を拒否し、なかなか前に進まないことが多い。
対象	あいりん地域住民
地域特性	あいりん地域は、単身男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。また家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。
活動目標	セルフネグレクトや、福祉サービスを受けていない高齢者に対し、様々な関係機関と連携し、閉じこもり予防・生きがいづくり・つながりづくりを支援する。
活動内容 （具体的取組み）	介護予防・健康づくり・閉じこもり予防の為、週1回のラジオ体操・月1回のらぶりん体操・忘れん坊茶屋の開催。年2回の体力測定・認知症勉強会の忘れん坊茶屋。受診や治療に繋がるよう隔月1回愛染橋病院の協力のもとあいりん健康相談会、また誰でも参加できる居場所づくりとして週4回くつした輪っかボランティアを開催した。それぞれ参加者名簿を作成し、不参加が続くようであれば訪問し安否確認を行った。ランチの行事に、参加しないリスクのある高齢者には、最低月1回は配布物を持って訪問し状況確認を行っている。また年賀状、暑中見舞い、バースデイカードなどを送った。コロナ禍で行事ができない時は、布マスクを作成し必要な方に配るとともに、1人1人の状況を確認していた。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	令和元年度の開催回数・参加人数はラジオ体操41回延べ840人 らぶりん体操11回延べ 198人 忘れん坊茶屋11回延べ 275人 あいりん健康相談会4回延べ67人 くつした輪っかボランティア163回延べ1340人。忘れん坊教室2回延べ55人。体力測定2回延べ65人参加された。 あいりんランチ主催の催しが増えたことにより、西成市民館に定期的に通う利用者が増えた。日常の会話の中から、日々の困り事、ニーズが把握でき、大事に至る前に解決できたケースが多々あった。また新たな試みのバースデイカードは、わざわざお礼に来られたり、TVの横に飾ってくれたり、とても好評であった。
今後の課題	無気力な方たちに対して、どこまで対応できるかわからないが、あいりん地区であいりんランチがこんなことをしてるよと発信し続けていくことで、少しずつ輪が生まれ、絆が生まれ、そのことによって閉じこもりやセルフネグレクトが減って行くよう願っています。

以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月21日(火)
専門性等の該当	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 （拡張性） ☐ 専門性 ☒ 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント （区地域包括支援センター 運営協議会からの意見）	ランチが主催している体操等の参加人数は延べ約2,900人である。参加者あてに年賀状、暑中見舞い、バースデイカードを作成し、正しい住所の把握や安否確認、個々のニーズの把握に繋げることができた。ランチ主催の催しが増えたことにより定期的に通う利用者が増え、問題を抱えている高齢者に対し、早期発見、未然に防ぐことができた。今後もセルフネグレクトや閉じこもりの減少に期待したい。